

2019年3月 ビシュナプールコロニーワークキャンプ



【活動日程】 3月8日～3月28日

【活動場所】 インド西ベンガル州ビシュナプールハンセン病コロニー

【参加者（日本）】 計7人

渡辺桂舟（筑波大学2年）、笹目慈音（筑波大学3年）
南真咲（筑波大学2年）、奥村駿也（名古屋大学2年）
杉山哲也（名古屋大学3年）、大谷康太（筑波大学2年）
三浦寿起（筑波大学2年）

【活動報告】

《ワークプロジェクト》

《概要》屋根の老朽化による雨漏りといった居住環境における課題が存在していたため、11軒の家屋修繕（屋根の交換）を実施した。

《目的》対象家庭の居住環境を改善する。雨漏りなどの課題を解決することで、生活の質を向上させ、心身の健康に寄与すること。

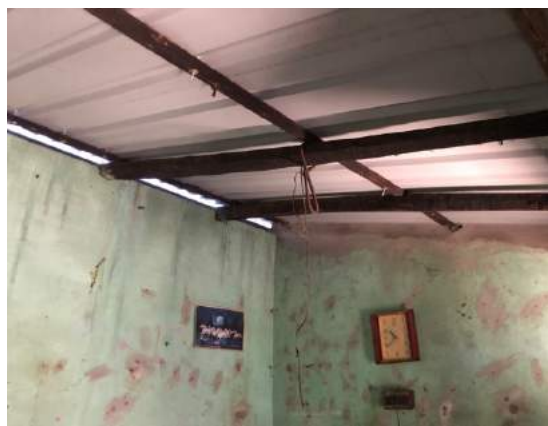
《成果》ワークキャンプ期間中に11軒全ての屋根修繕を終えた。修繕を行なった家屋の住人からは、「雨漏りがなくなり、安心して生活できるようになった」との声が上がった。



Before)ワーク前の屋根の様子



After)ワーク後の屋根の様子



After)室内からみた屋根



村人と共にワーク作業を行うキャンパー

《リサーチプロジェクト》

《概要》コロニーに存在するワークニーズの優先順位について、村人とグループディスカッションを開いた。その後、個々人の意見をより詳しく把握するために18歳以上の村人を対象にワークニーズの優先順位に関するリサーチを行った。また、去年の夏に開催されたワークキャンプで屋根修繕が行われた家屋を対象に事後評価リサーチも実施した。

《目的》以前実施したプロジェクトによってどのような成果が得られたのか、また今後のワークのニーズとしてどのようなものがあるかを調査する。また、リサーチを通してキャンパーが村人との交流を深めることも目的としている。

《成果》グループディスカッションとリサーチの結果、優先度が高いワークニーズとして女性専用水浴び場の整備があがった。また、68人の村人から回答を得ることができ、多くの村人の意見が反映されている正確な調査結果が得られたと考える。



リサーチの様子



リサーチの様子②

《エンタメプロジェクト》

《概要》コロニーを出発する前日にコロニーでフェアウェルパーティーを開催した。そこで日本人キャンパーと村人がダンスを披露した。また、日本人キャンパーとインド人の学生がベンガル語で歌を歌うなどして村人と交流をした。

《目的》日本人キャンパーが村人と交流を深める機会を設ける。また、近隣の人がコロニーに来る機会を設けることでコロニーの人との交流を促す。

《成果》多くの村人が参加することでとても盛り上がり、村人も楽しんでもらうことができた。また、コロニー外部からもパーティーを見に来る人がおり、活動について知ってもらう良い機会となった。



フェアウェルパーティ



フェアウェルパーティ後の子供達